

中途失明者の個に応じた 最適点字サイズ評価と 点字触読指導プログラム及び教材の開発

(課題番号13610348)
平成13年度～15年度

科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))
研究成果報告書

平成16年3月

研究代表者 澤 田 真 弓
(独立行政法人国立特殊教育総合研究所)

は じ め に

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部による「身体障害児・者実態調査」(2001)によると、18歳以上の視覚障害者数は30万1,000人、18歳未満は4,800人と推計されている。障害等級状況をみると、障害の程度が重度の1級が全視覚障害者数30万5,800人のうち、10万7,200人、その中で約3万人が点字を常用して読み書きを行っている。また、障害の原因別や発生時の年齢別の統計からみると途中で視覚障害になった者が多い。

情報を得るために視覚活用をしてきた者にとって、それを触覚中心に代えるというのは、相当な困難をきたす。また、中途失明者は障害受容とも関連して、点字に対する抵抗感が強い場合もある。中途失明者の点字指導、とりわけ触読効率を高めるための指導法については、各教育現場によって様々であり、手探りの状態にあり、その指導の場である盲学校やリハビリテーションセンター、点字図書館等における連携についても希薄な状況にある。

そのような状況の中で、中途失明者の職業的自立や自己実現の手段の一つとなる点字を習得させるためには、それぞれの到達目標に合わせた点字指導プログラムと教材の開発が是非とも必要である。

そこで本研究では、一旦普通文字を獲得した後に視覚障害となった者の点字触読能力の向上に焦点をあて、個に応じた最適な点字サイズと指導プログラム及び教材の開発を目指した。特に指導の実践的な場での活用を考え、「中途失明者の点字指導に関する学習会」を立ち上げ、その学習会で、指導プログラムや教材等の検証を行いながら研究を進めてきた。3年間の研究期間を一区切りとして、本報告書と指導者用の「中途失明者の点字触読指導マニュアル及び教材(CD・フロッピー付き)」を作成した。本研究の成果が中途失明者の点字習得の一助となれば幸いである。

平成16年3月

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

研究代表者 澤 田 真 弓

目 次

研究組織及び経費

研究成果の発表

第 1 章 研究の概要	1
第 2 章 基礎研究	
点字触読困難な中途失明者への指導アプローチ 一点字サイズの違いによる触読のしやすさの比較から	3
日本特殊教育学会発表資料 中途失明者の点字指導に関する研究(I) 一点字触読初期指導における縦読みの有効性についての検証 中途失明者の点字指導に関する研究(II) 一カリフォルニアサイズ点字と国際サイズ点字の触読の違いについての検証 中途失明者の点字指導に関する研究(III) 一点字サイズの違いによる触読の比較	23
第 3 章 指導法及び教材	
点字触読教材の実態	27
『点字入門 2002 年版—中途失明者の点字学習のために』発行について	35
中途視覚障害者への点字指導導入教材について	43
第 4 章 「中途失明者の点字指導に関する学習会」の報告	
学習会の趣旨	49
第 1 節 第 1 回学習会の報告	51
1. 「点字指導について」講義記録	52
2. ナイトセミナー（グループ討議）の記録	55
第 2 節 第 2 回学習会の報告	61
1. 日本ライトハウスでの点字指導 坂本式点字触読指導法	62
2. ナイトセミナー（グループ討議）の記録	64
第 3 節 第 3 回学習会の報告	70
1. L 点字について	71
2. ナイトセミナー（グループ討議）の記録	74

研 究 組 織

研究代表者

澤 田 真 弓 独立行政法人国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部盲教育研究室主任研究官

研究分担者

大 内 進 独立行政法人国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部盲教育研究室長

中 野 泰 志 東京大学先端科学技術研究センター特任教授

研究協力者

原 田 良 實 名古屋市総合リハビリテーションセンター

管 一 十 日本盲人会連合

藤 野 克 己 視覚障害者生活情報センターぎふ

立 花 明 彦 静岡県立大学短期大学部社会福祉学科

松 谷 詩 子 日本点字図書館

伊 藤 和 之 国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所理療教育部

田 辺 正 明 日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター第3訓

小 林 貞 良 福岡市立点字図書館

猪 野 孝 子 元名古屋市総合リハビリテーションセンター

正 井 隆 晶 奈良県立盲学校

吉 田 道 広 熊本県立盲学校

研究協力機関

日本盲人社会福祉施設協議会リハビリテーション部会

研 究 経 費

平成13年度 1, 600 千円

平成14年度 800 千円

平成15年度 1, 100 千円

合 計 3, 500 千円

研究成果の発表

- (1) 正井隆晶 澤田真弓 吉田道広：中途失明者の点字指導に関する研究(Ⅰ)一点字触読初期指導における縦読みの有効性についての検証一，第40回日本特殊教育学会発表論文集，P297，2002.
- (2) 吉田道広 澤田真弓 正井隆晶：中途失明者の点字指導に関する研究(Ⅱ)ーカリフォルニアサイズ点字と国際サイズ点字の触読の違いについての検証一，第40回日本特殊教育学会発表論文集，P298，2002.
- (3) 正井隆晶 澤田真弓 吉田道広：中途失明者の点字指導に関する研究(Ⅲ)一点字サイズの違いによる触読の比較一，第41回日本特殊教育学会発表論文集，P335，2003.
- (4) 澤田真弓：点字触読困難な中途失明者への指導アプローチ 一点字サイズの違いによる触読のしやすさの比較から一，国立特殊教育総合研究所紀要，31，2004.